

大本山永平寺福山諦法猯下と記念撮影



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第 6 号



去る三月十一日の東日本大震災は、未曾有の災害であり、未だ経験のない大津波によって、多くの命が一瞬のうちに奪われてしまいました。心からご冥福をお祈りするとともに、福島県の原子力発電所の収束される見通しも危ぶまれる状態ですが、被災されました皆様とその地域が一日も早く平常に戻り、復興されますようご祈念申し上げます。

また、皆様のお宅でも、あるいはご親戚でも被害にあわれた方々が沢山おられると思います。重ねてお見舞い申し上げます。当浄泉寺でも、境内の灯籠や多宝塔、本堂内陣の仏具、更に歴代住職の墓所等が被災いたしましたがお蔭様で六月まですべて修繕が終了いたしましたのでご報告いたします。さらに本堂屋根瓦につきましては、昨年皆様方にご浄財を賜り耐震施工で葺き替えておりましたので被害はございませんでした。本堂に時期が良く、もし工事が遅れていたら大変な被害だったと思います。皆様方に感謝いたしております。

さて、上の写真でございますが、去る四月二十八日に大本山永平寺において、焼香師の大役

を勤めさせていただきましたおり、福山諦法大本山永平寺猯下と随行くださいました檀信徒はじめ近隣のご寺院方と撮りました記念写真です。なかなか猯下と記念写真をとるということは稀な機会であり、参加者一同感激しました。(大本山永平寺焼香師随行参拝と古都奈良の旅の詳細は次ページに掲載しました。)

行事報告としては、今年の浄泉寺花まつりは四月九日に、モングルから馬頭琴と揚琴奏者をお招きして演奏会を開きました。そして、五月十七日には、成田市内のもりのこびとたちというサークルが本堂を使って東日本大震災のチャリティーコンサートをし、冒頭被災者のご供養の法要を営みました。今年の八月十五日のお盆の万燈会では、尺八奏者を迎え、幽玄な世界を演出していただく予定です。そして秋の観月会は第二回目として実施したいと考えております。是非ご参加ください。おわりに、節電が叫ばれるなか猛暑に向いますので、ご家族の皆様のご自愛ご健勝を、心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

当面の行事等

8月 6日～7日 新盆柵経

8月 13日～15日 柵経

8月 15日 万燈供養(尺八演奏会)

午後6時～午後11時頃まで

(尺八演奏会午後7時から8時まで)

8月17日 施食会 午前9時から

9月20日～26日 秋彼岸会

10月22日(土) 観月会イベント

(別途ご案内申し上げます。)

大本山永平寺春期報恩法会
**焼香師随行参拜と
 古都奈良の旅**

院のご住職様方、そ
 して檀信徒の皆様
 方とともに、永平寺
 と古都奈良の旅に
 行ってまいりまし

去る四月二十七日から二十九
 日までの二泊三日で、大本山永
 平寺春期報恩法会にて浄泉寺住
 職が焼香師の大役を勤めるため
 近隣ご寺院・県内の有縁のご寺



当日千葉県から御随喜頂いたご寺院様方と

当日千葉県から御随喜頂いたご寺院様方と
 続きまして、
 永平寺では、住職及び随行寺
 院は、明日の法要の打ち合わせ
 等で檀信徒の皆様とは別行動と
 なりました。しかも、住職とご

院のご住職様方、そ
 して檀信徒の皆様
 方とともに、永平寺
 と古都奈良の旅に
 行ってまいりまし
 た。大震災の後ということこ
 の旅行もキャンセルが相次ぎ、
 団参として実行できるか大変不
 安でしたが、直接永平寺にお出
 でいただきました一部のご寺院
 様を入れますと総勢四十名とい
 う関東からの焼香師随行として
 は大きな規模の方だと言われま
 した。参加いただきました皆様
 本当に有難うございました

一日目は、朝六時に浄泉寺を
 出発し、一路永平寺を目指し東
 関道・湾岸道・首都高速・東名
 高速と乗り継いで岡崎市で一旦
 高速道路を降り、昼食をとりま
 した。その後再び名神・北陸自
 動車道を通り、永平寺には予定
 通り午後三時三十分に着しまし
 ました。ここで雨が降ってしま
 した。この雨は翌日正午の出発ま
 で続きます。



永平寺法堂で焼香師を勤める住職



高祖様(道元禅師) 蜜湯を供える

寺院様方も離れ
 ており、連絡手
 段もなく、何回
 も何回も永平寺
 のあの階段を上
 り下りしまし
 た。

二日目は、朝
 のお勤めで特別
 法要をお願い
 し、参加者各家
 のご先祖様のご
 供養をしていた
 だきました。
 その後、住職
 方でもなかなか
 ご一緒に写真を
 撮る事が出来な
 い、大本山永平
 寺福山諦法禅師
 猊下と記念写真を撮ることが出
 来ました。(表紙の写真)一同
 思いがけぬ幸運に感激しまし
 た。

二日目は、朝
 のお勤めで特別
 法要をお願い
 し、参加者各家
 のご先祖様のご
 供養をしていた
 だきました。
 その後、住職
 方でもなかなか
 ご一緒に写真を
 撮る事が出来な
 い、大本山永平
 寺福山諦法禅師
 猊下と記念写真を撮ることが出
 来ました。(表紙の写真)一同
 思いがけぬ幸運に感激しまし
 た。

寺院様方も離れ
 ており、連絡手
 段もなく、何回
 も何回も永平寺
 のあの階段を上
 り下りしまし
 た。



大雄山最乗寺 結界門

さて、午前十一時、二百名近
 い数の僧侶が揃い、厳肅な空気
 が流れる中、いよいよ焼香師修
 行の本番です。この法要は、高
 祖道元禅師に報恩感謝を申し上
 げるものでありますが、丁度当

日(四月二十八日)は、あの大
 震災から四十九日目でございます
 した。これも何かのご縁と、大
 震災で突如として奪われてし
 まった多くの御霊の成仏も願
 い。約三十分の法要は緊張のな
 か無事終了。終わって随行のご
 寺院様と記念撮影をしました。

さて、午前十一時、二百名近
 い数の僧侶が揃い、厳肅な空気
 が流れる中、いよいよ焼香師修
 行の本番です。この法要は、高
 祖道元禅師に報恩感謝を申し上
 げるものでありますが、丁度当

日(四月二十八日)は、あの大
 震災から四十九日目でございます
 した。これも何かのご縁と、大
 震災で突如として奪われてし
 まった多くの御霊の成仏も願
 い。約三十分の法要は緊張のな
 か無事終了。終わって随行のご
 寺院様と記念撮影をしました。

喜いただき、お祝いの言葉をいただき本当に有難く、感激の極みでした。門前で昼食をいただきお土産を買って、古都奈良に向かいました。バスの中は、大本山での緊張も解け、お酒を飲んだり、カラオケをしたりと楽しいバス旅行に変わり、午後四時過ぎには東大寺の大仏殿の屋根が見えてきました。宿は「三笠」という奈良市内のを見下ろせるきれいな旅館でした。勿論夕食は大宴会です。芸達者のお檀家さんの踊りや歌に和やかに過ごしました。

翌日は快晴です。沢山の鹿に迎えられ東大寺を訪ねました。そして昨年千三百年祭で復元された平城京を訪れ、朱雀門や大極殿、宝物館などを見学し、最後に渡来僧鑑真和上の寺「唐招提寺」に参拝しました。昼食は三重県に入ってとり、帰路につきました。

今回の大本山永平寺での焼香師のお勤めは、おそらく僧侶としての生涯一度の事だと思いますので、大変有難く、これもみな檀信徒のお蔭と感謝いたしております。有難うございました。

お盆の迎えかた

お盆は、一年に一度、八月に、その家のご先祖をお迎えして十分な供養をする時です。地方により、またその家の習慣により、その迎え方は異なりますが、その一例を紹介します。

八月十三日の夕方、家の門口でオガラ（皮をはいだ麻の茎）を焚いて精霊（祖霊）を迎える風習や、お墓参りをし、墓前で火を焚いて先祖の霊を迎える習慣があります。これらを「迎え火」といいます。

十四日、精霊はその家に留まるとされ、仏壇や精霊棚、また墓前に灯明や灯籠をとますのは、万灯の一つとして精霊に供養する意味があります。

十五日の夕べ（または翌早朝）ご先祖様はその家を去るといわれておるところから「仏送り」ともいい、「送り火」を焚き、お供えをし、灯籠を流したり、水辺の無縁の霊に施しをする習慣があります。

しかし昨今では、河水を汚すのを避けるため、供物を河に流さず適宜処分するようです。

浄泉寺大施食会と棚経のお知らせ

◎ 施食会 八月十七日（火）
午前九時から
当寺本堂でお勤めします。

◎ 棚経 八月十三日（土）
午前 伊篠・飯仲地区
午後 中央台・東酒々井・その他酒々井地区

◎ 新盆について
今年新盆を迎えるのは、平成二十二年七月より平成二十三年六月までに逝去された方です。

◎ 新盆棚経
八月六日（土）
八月七日（日）
※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。



琵琶奏者 清野樹盟氏



釈迦降誕会

浄泉寺花まつり

去る四月九日(土)、本堂に花御堂を飾りお釈迦様の像(誕生佛)をおまつりして、浄泉寺花まつりが行われました。花まつりの法要の後、今年も東日本大震災物故者の追悼法要をし、参加者全員が黙とう、冥福を祈って焼香しました。また、例年通り皆様がお釈迦様に甘茶をかけ、お釈迦様の誕生をお祝いしました。



馬頭琴奏者バトエルデネさんと揚琴奏者ネグイさん

今年イベントは、モンゴルから馬頭琴と揚琴の演奏者をお招きし、大草原をわたる風を感じ



演奏に聴き入る参加者のみなさん

きし、大草原をわたる風を感じようような演奏に酔いしれました。特に馬頭琴奏者のバトエルデネさんは、馬頭琴の第一人者とも言われており、貴重な演奏を聴くことができました。ラクダの声や馬のいななきなど、馬頭琴で表現して聴かせてくれました。また、揚琴のネグイさんは、日本のお寺に嫁がれており、演奏曲に日本の曲やオリジナルの曲も入れて聴かせてくれました。

各種講座等のご案内

◎梅花流(曹洞宗)御詠歌講

毎月第三土曜日

午後二時から午後四時まで

新しい講員さんも増えてます是非この機会に参加してみてください。

◎坐禅会

毎月第一日曜日

午前六時から午前八時まで

◎写経会

毎月第三日曜日

午後二時から午後四時まで

※これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

やすらぎは

ご先祖の供養から

平成二十三年 年回表

- 一周忌 平成二十二年
- 三回忌 平成二十一年
- 七回忌 平成十七年
- 十三回忌 平成十一年
- 十七回忌 平成七年
- 二十三回忌 昭和元年
- 二十五回忌 昭和六十二年
- 二十七回忌 昭和六十年
- 三十三回忌 昭和五十四年

仏教豆知識

塔婆とは

塔婆とは、詳しくは「卒塔婆」と書き、古代インドの言語、サンスクリット語(梵語)の「ストウーパ」から来たものです。元は土饅頭型に盛り上げた墓のことで、特に仏教ではお釈迦様の舍利(遺骨)や遺品を納めた供養塔を意味していました。

寺院にある三重塔や五重塔は、この供養塔が変化したものです。法事の時に建てるのは板塔婆で、頭部が独特の形をしています。空 風 火 水 地

五輪とは、空・風・火・水・地という、宇宙を構成する五つの要素をいい、またそのまま仏身を現したものです。

●塔婆供養の功德

お塔婆は仏様の身体そのもので、それを建立する功德が種々に説かれています。

今、その功德を述べると、一、塔婆はそのまま仏様の御姿

であるから、一基建立すること、は、仏像を一体建立するのと同等の功德がある。

二、塔婆を見ることは、人と仏様とは五輪(頂・面・胸・腹・膝の五処)のすがた・かたちとして、根本において同じであることを教え、仏心の目覚めを促すはたらきをもっている。

三、塔婆を建てることにより、仏像に対する崇敬の念と、靈位に対する報恩と感謝の念を増すことができる。

四、塔婆供養は、回向するところの靈位を安樂の境界に導き、仏果を増す。

五、塔婆は、志すところの靈位のみならず、それを目にするものすべて(衆生もろもろの生き物)に、同じく利益を及ぼすことができる。

ということが、お経に説かれているのです。

●塔婆供養偈文

一見卒塔婆 永離三惡道

何況造立者 必生安樂国

(二)たゞ卒塔婆を見上げるものは、永く三惡道を離る。何に況や造立する者は、必ず安樂国に生ぜらん)